

[10 月度例会] [水道実務の技術継承に向けた取り組み事例について]

日時：2014 年 10 月 2 日 18:00～20:00 於：近畿本部会議室

講師：(一社) 日本ダクタイトイル鉄管協会 顧問 技術士 片山隆文氏

1. はじめに

多くの水道事業体において、団塊の世代の退職や職員数の削減などにより、現場実務に関する経験豊富な熟練者が育成されにくい環境になってきている。それと同時に、技術継承問題の顕在化し、放置できない深刻な状況と認識されてきている。そこで、日本ダクタイトイル鉄管協会の技術説明会において、技術継承問題の支援の取り組みを始めたとのことで、その取り組み事例について報告された。

その取り組みのコンセプトを「継承すべき技術と知識の移転方策」として、本来は、継承されるべき技術である実務経験に裏づけされた基礎知識を教材とし、単に事実報告にすまずことなく、それらの事例研究による知識移転の試みるため、実際の事故事例を教材とし、事故の教訓を再発防止対策につなげるものとされた。

2. 新たな技術説明テーマと概要

技術説明のテーマを「水道管路における事故事例と教訓について」とし、実務経験が少ない新入職員や転入職員などが即戦力として活動できるよう、事故や失敗の事例を紹介しながら水道管路に関する基礎知識を短時間かつ効率的に習得できるものとされた。

事故事例は、関西の大規模水道事業体の協力を得て 40 件収集し整理された。事故原因の分類には「失敗学*」を取り入れ、原因究明では「直接原因」と「根幹原因」を受講者に考えさせ、経験の多い講師の分析結果を報告し、人的ミスが最多の原因であることを指摘。その上で、これを防止するための対策は、「組織的」な系統立った対策が重要であることが伝えられた。

3. これまでの取り組みと今後

昨年 10 月から試行的に関西を中心とする水道事業体の職員を対象に実施されてきたが、全国の水道事業体職員を対象とする当協会の研修会にも拡大していくとのことであった。

また、事故事例に留まらず、さらに良い教訓が得られる事例を収集し充実していくとの抱負も紹介された。

*「失敗学」とは、起こってしまった失敗に対し、責任追及のみに終始せず、(物理的・個人的な) 直接原因と(背景的・組織的な) 根幹原因を究明する学問のこと。畑村洋太郎氏が提唱し、3 月まで独立行政法人科学技術振興機構が提供していたデータベースのコンテンツを氏が主宰している「畑村創造工学研究所」が公開している。